



ほっと 33号

ホームページ URL

<http://dokaren.com>



* 2021年度総会

北海道知的障がい児・者家族会連合会 会長 安田 由美



2019年末から広がった新型コロナウイルスの流行は、私達の生活を変えてしまいました。入所施設にいる本人と会えない、言葉を交わすこともできないなど、これまで想像しなかった生活になった方も多いことでしょう。もちろん、一緒に生活される方もマスクや外出の自粛など、多くの制限を受けておられると思います。感染症による生活の変化は私達に何を伝えようとしているのでしょうか。

地球温暖化による環境の変化から新しい感染症が発生し、大規模な災害が起こりやすくなると言われます。10年前の東日本大震災など、地球が警鐘を鳴らしているのではないかと思います。アメリカの先住民の言葉にこのようなものがあります。

「最後の木が枯れ、川が汚染され、最後の魚が釣り上げられてはじめて、人間はお金を食べることができないことに気がつくものだ」

現状を見ないようにし、考えることを止め、安易な方に流れていくとしたら、私達は大きなしっぺ返しを受けるのではないかと、そんなことを思います。

子どもや家族と会えない時間に、私達家族が何をすべきなのでしょう。

施設事業所を利用する子供や家族の、安心安全で心豊かな生活とは何か、どのように施設事業所側と環境を整えていくのかを考えて、家族会が強くなることも必要ではないかと思います。

道家連の活動は、地区家族会連合会と各家族会の活動を支え、利用者のくらしをより良いものにしていくために続かなくてはなりません。この1年の間にも、子供を思いながら亡くなった親の方もおられます。家族会として互いに支え合って活動することが、親亡き後の心配を一つでもなくすことにつながるのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスは、まだまだ流行を続け、以前の生活様式に戻るのに時間がかかると思います。

しかし、私達はできることをし、つながることを続けましょう。

2020年度は、役員会を8月に開催しましたが、その後は感染防止を考えて、Zoom というオンラインの画面越しで会議のできる仕組みを利用して、事務局会議、役員会を行うことにしました。一瞬で道内の役員のお顔を見ることができ、大変便利なものです。Zoom だけでなく、書面でもお伝えするようにしました。

2021年度は新たなつながり方や研修に取り組む1年にしたいと思います。会員の学びを深めるために工夫をし、各地区家族会とつながりながら、それぞれが抱える問題に共に取り組みたいと考えています。今は、できることからコツコツと、スマホやパソコンなど便利なものも使いつつ、子供・家族のための活動を止めないように、一歩ずつでも進みましょう。

総会は参集できなかったものの、関係各位の皆様から、お忙しい中、大変温かいお言葉をお寄せいただきまして、心から感謝申し上げます。

* ごあいさつ

北海道保健福祉部保健福祉局 障がい者保健福祉課長 遠藤 篤也 様

「北海道知的障がい児・者家族会連合会2021年度総会」が、開催されますことを心からお祝い申し上げます。

また、日頃より、北海道の障がい者福祉施策の推進に多大なるご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

貴会におかれましては、障がい児・者に係る福祉施策の充実と改善を図るため、知的障がいのある方々のご家族等の悩みや思いを共有すると共に、課題解決に向け、請願や要請に取組む等、皆様方のこれまでのたゆまぬ努力とご活動に深く敬意を表します。

現在、新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るう中、本道においても住民生活に大きな影響を及ぼしています。令和3年5月7日には、国において、本道を、まん延防止等重点措置を実施すべき区域としました。

さらに、道では、5月16日から6月20日までの緊急事態宣言が発令され、これを踏まえた全道における感染防止対策を進めているところであり、皆様におかれましても、引き続きのご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

さて、道では、今年度からの3年度を計画期間とする「第6期北海道障がい福祉計画」を策定しました。本計画では、国の基本的な指針や本道の地域実情を踏まえて「障がい者の自立と社会参加の促進」や「就労支援施策の充実・強化」、「精神保健福祉・医療施策の充実」等において、新たな取組を進めることとしています。今後とも「希望するすべての障がい者が、安心して地域で暮らせる社会づくり」を目指し、市町村や貴会をはじめとする関係者の皆様と協働して取組んでまいります。

結びに、北海道知的障がい児・者家族会連合会の皆様におかれましては、今後とも、道の障がい者福祉行政の推進に変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、北海道知的障がい児・者家族会連合会の活動がますますご発展され、会員の皆様方のますますのご健勝をお祈り申し上げ、総会開催に当たってのご挨拶とさせていただきます。

* ごあいさつ

一般般団法人 北海道知的障がい福祉協会 会長 遠藤 光博 様

北海道知的障がい福祉協会会長の遠藤です。2021年度の北海道知的障がい児・者家族会連合会の定期総会の開催に当たり、ご挨拶を申し上げます。

北海道知的障がい児・者家族会連合会におかれましては、日頃から、知的障がいのある方やご家族の現状や思いを共有し、家族が相互に連携し、知的障がい児・者の福祉施策の充実・改善を図る活動に取り組まれており、それぞれの地域における会員の皆様のこれまでのご労苦に敬意を表しますとともに、障がい者支援施設をご家族の立場からご支援いただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

特に、新型コロナウイルスの感染拡大が思いのほか長期間に及び、面会や外泊などご本人との交流の制限が続いていることは、ご本人の心細さはもとよりご家族のご苦勞はいかほどかと拝察いたします。

さて、当協会では、昨年度、新型コロナウイルス感染拡大により、12月末まで事業を中止しましたが、本年度は、屋内で大人数が密着することが想定される状況での事業を除き、感染防止対策を徹底した上で強い警戒感をもって事業を実施することとしています。

また、全国的に施設での虐待が増加する中、虐待防止対策を検討する虐待防止委員会の設置や虐待防止責任者の設置等が令和4年度から施設で義務化されますが、道内施設においても、虐待事案が後を絶たない状況が続いており、協会として、こうした事態を重く受け止め、現場で支援する職員のコンプライアンス遵守や支援の質の向上につながるような意識啓発や研修に、一丸となって取り組み、実践していく必要があります。

先を見通しづらい状況ではありますが、過剰な自粛ではなく、正しく恐れ、適切な感染防止に努めながら、日常を取り戻すための地道な取り組みが求められています。

今後も、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

家族会連合会の活動の一層のご発展と会員の皆様のご自愛のほど心よりお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

* 誰もが安心して暮らせる社会へ

～ めざすは同じ、共に歩みを ～

一般社団法人 北海道手をつなぐ育成会 会長 佐藤 春光 様

北海道知的障がい児者・家族連合会定期総会の開催にあたり、本書面にて一言ご挨拶を申し上げます。

貴会におかれましては、障がいを持つ当事者及び、ご家族の幸福を追求すると共に、福祉施策の充実と改善を目的として様々な活動を展開され、成果をあげておられますことに深く敬意を表します。

さて、皆様もご承知の通り、道内においても「新型コロナウイルス」の感染者が急増し、5月16日からは「緊急事態措置区域」の対象となりました。

自粛が厳しく求められ、障がい当事者はもとより、ご家族、支援者は以前にも増して、強い緊張と先の見えない不安な日々を過ごしています。

私は、道育成会の「げっぼう（1月、新年号）」で、普通に暮らすには、まだまだ程遠い障がい児者の現状がありながら「自助・共助・公助」という順番を声高に叫ぶ方々を批判しました。

それは我々に、さらなる我慢を強いているように感じるからです。

やはり、公助を基本とし、しっかりとした土台を築いた上に建物を建てなければ、全ての国民が、風雨に耐え、長い時間を安心、安全に暮らすことはできません。

道育成会は、本年3～5月にかけ「ワクチン接種に係る障がい児者への配慮を求める要望書」を道知事と共に道内7市、1町の首長へ提出しました。

旭川市においては、育成会の呼びかけに障がい種別の枠を超えた17団体（旭川障害者連絡協議会）による共同提出が実現しました。

私たちは、コロナ禍であるからこそ、全ての方々の命を、学ぶ場を、働く場を守り、次の世代にどんな制度や支えが必要なのか、声を束ね、関係者に届け続けたいと思うのです。

共に歩みを進めようではありませんか。

* ごあいさつ

きょうされん北海道支部 支部長 清水 道代 様

新型コロナウイルス感染拡大により、感染への予防を徹底し集まることや人と触れ合うことを極力避けなければならない暮らしの中で、貴団体や関係者におかれましては不安や緊張など負担が大きい一年であったと思います。そのような中でも、障がい者福祉制度や施策の充実にため熱心に取り組まれていることにあらためて敬意を表します。

当団体としては、コロナ危機の下、障がいのある人と現場の思いを国に対して10回届け、支部としても北海道への要望書を昨年4月と今年5月に提出しました。「家族が新型コロナに感染して入院したなら、わたし一人ではどうして暮らしていったらいいか心配」「グループホームで暮らしているのでマスクをずっとはずすことができない。苦しい」など切実な声がありました。また、当団体が2月に公表した「生産活動・利用者工賃実態調査」では昨年10月の時点で6割以上の事業所が、生産活動収入が減少していることも明らかになりました。

新型コロナ危機の中では、社会に埋没していた政策的課題や命の選別問題が浮き彫りにされてきています。クラスターが起きた介護施設や精神科病院で、障がいなどが理由に入院治療が後回しにされるなど、障がいのある人の命が軽んじられるような事態が起きています。近年保健所の数が減少していることなども、公衆衛生や医療資源を軽視する政策がこうした状況につながっています。2021年4月の障害福祉サービス報酬見直しについても、全体で0.56%のプラス改定となりましたが、前回の見直しから利用者は毎年1万人以上増え続けており、実質的にはマイナス改定と言わざるを得ません。新型コロナの危機を乗り越えたとしても社会保障はやせ細り、さらなる困難が襲ってくることは必至です。当団体としては、広く関係者の方々と手を携えながら、社会保障制度の抜本的見直しを求めていると考えています。

特に今年度は裁判の年です。去る5月8日には道支部総会をオンラインで開催し、優生保護法違憲訴訟や生活保護基準引き下げをめぐる裁判に関わる学習も合わせて行いました。公正な判決を求める署名活動などをおして裁判官が無視できないような運動のうねりをつくっていければと思います。

そして、東日本大震災から10年が経ち、「忘れない」決意を新たに、東日本大震災をモチーフにした、きょうされん40周年記念映画『星に語りて～Starry Sky～』の上映運動を、知恵を出し合いながら広めていきたいと考えています。

様々な場面で、貴団体の皆様とも共に活動する機会があると存じます。是非とも、共に運動を前へ進めていくよう力を合わせていければと思います。今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

* 2021年度北海道知的障がい児・者家族会連合会総会 報告

2021年5月30日(日)13:00から道家連総会が Zoom で開催されました。

畑中事務局長が司会を務め、承認の議決権行使書が提出されている家族会は57、不承認はなく、Zoom の参加者は16名、その場で議決権行使家族会は2で、86会員家族数の過半数を満たしており、総会が成立していることが報告されました。

議長に小谷副会長が選任され、事前に配布されている議案書に従って議事を進行了しました。第1号議案 2020年度事業報告、第2号議案 2020年度一般会計・絆事業特別会計報告を、安田会長が報告してから、監査報告を飯田監査が行い、すべて承認されました。

続いて、第3号議案 2021年度事業計画(案)、第4号議案 2021年度一般会計・絆事業特別予算(案)を安田会長が説明し、すべて異議なく承認されました。

次に、第5号議案 役員改選について事前に配布されていた幹事候補と監査候補を安田会長が説明し、すべて異議なく承認されました。

承認 59、不承認 0 という結果で、議事は無事に終了しました。

小谷議長が退任した後、議案書のその他について安田会長が説明し、すべて了承され、総会は終了しました。

新幹事による役員会は15:00からの予定でしたが、総会が早めに終わり、14:30からの開催が提案され、了承されました。

2021年度の新三役が決定しました。

会長	近藤 正	札幌	札幌報恩会後援会
副会長	小谷 裕子	道東	帯広マイトリー保護者会
副会長	藤井 浄	後志	小樽四ツ葉学園保護者と職員の会
副会長	安田 由美	道南	よつば学園保護者の会
事務局長	畑中 陽夫	道央	北ひろしま福祉会共栄緑の郷

* 編集後記

2期4年を務めた事務局長が退任の予定でしたが、後任を引き受ける方は現れませんでした。

今年度中に新事務局長と、2名の新事務局次長を選出する課題が残っています。

道家連の一人一人が何らかの任を負うことで、道家連は成り立っています。

我が子や家族、自分を含めて、みんなのために活動しています。

一人の力は弱く小さくても、一人一人の力が結集することで強く大きくなり得ます。

誰かがやるのではなく、あなたとわたしがやるのです。

最終ページに、新会長のメッセージがあります。

みんなで、新会長を支えつつ、道家連2021年度がスタートしました。

＊ 会長就任にあたり 北海道知的障がい児・者家族会連合会 会長 近藤 正



2021年度の定期総会および役員会においてご推薦をいただき、会長を務めさせていただくことになりました近藤でございます。

このような大役を拝命することは、私にとって身に余る光栄でございます。

しかし、幹事として2期在席していただけた実績で、運営面にもほとんど関わっていなかった私には、この任務に必要な知識・見識・経験とも不足しているのは明白であり、お引き受けしてよいものかどうか悩んだのも事実です。

しかし、お引き受けした以上は、諸先輩のお力添えをいただきながら、1期2年間の任期を務めることができるよう努力する所存でございます。

まずは就任にあたり、道家連設立から現在までの基盤、実績を積み上げて来られた歴代会長および役員の皆様や運営に関わって来られた方々に敬意を表するとともに、培われた理念や実績を今後も継続していくことが最大の課題であると認識しております。

また、社会情勢や環境の変化が著しい中で、運営面で柔軟に対応し会員の皆様からしっかりと支持をいただけるような活動をしていかなければならないと思います。

現在、世界中で猛威を振るっていて、未だ終息の兆しが見えないコロナ禍は、道内でも以前に増して変異株による感染拡大が続いており、医療体制のひっ迫など日常生活全体も不安な状況が増えています。

障がい者施設利用者や私たち家族にとっても、帰省や面会の制限や会合・イベントの中止など不安な日々が続いていますし、施設職員の方々も通常業務に加えて感染対策に要する負担の増加も深刻な状況と推測されます。

そんな中で、私たち家族会や連合会のできること・やるべきことは多いと思います。

できることを少しずつ取り組みながら、コロナ禍でも活動が停滞しないよう、Zoom 会議の活用も含め、連携や意思疎通を高めてしっかり行動していかなければなりません。

具体的には

- ・行政に対する要望事項7項目の継続
- ・全施連との連携についての方針の明確化
- ・事務局運営体制と役割の明確化
- ・関連諸団体との連携強化と信頼関係の構築
- ・会員家族会・地区家族連合会の体制の充実

などについて具体的に意見交換を行い、活動を進めていくことができればよいと思います。

以上、簡単ではございますが就任にあたってのご挨拶に代えさせていただきます。